

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400598		
法人名	社会福祉法人 正寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり荘		
所在地	兵庫県神崎郡市川町下牛尾 2537-1		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2873400598-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和元年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に囲まれゆったりとした時間の流れの中で生活されています。四季折々の山菜等の採取ができ、玄関先でより季節が楽しめるように夏野菜や花を大切に育てています。また、採取した野菜等は一緒に調理して食事やおやつとして提供しています。
同じ敷地内に特養とデイサービスが併設されており、看護師等の職員と協力体制、デイサービス利用者との交流などもあります。多職種連携と他部署との連携が優れていると思います。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福崎町のやや奥まったところにあり、山間で自然に囲まれて四季折々木々の色あいも楽しめる。食堂から眺める景色は素晴らしく、家族が花見や紅葉と一緒に楽しみに来られるほどである。管理者はじめ全職員は利用者と共に「笑い」「笑顔」が絶えないよう、暮らしを支えている。現在の利用者は、車いす6台と歩行器1台を利用され生活の中でのケアも増えているが、季節を感じてもらえるように、紫蘇ジュースを一緒に作った、吊るし柿も毎年の行事となっている。毎月行っている「寄合」では、利用者皆さんの希望を聞いて、食事の献立や外出の計画などに繋げている。職員不足もあるが、熱意をもって全職員が協力している。広い食堂兼居間では、利用者がゆったりと過ごしており、居室前から食堂への廊下で歩く練習をされている利用者もおられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念でもある、人間の尊厳を守る介護の実践を法人職員一同で理念の共有を図っている。 グループホームでの具体的な取り組み。 ① 個別ケア ② 職員会議等の勉強会へ意欲的に参加 ③ 介護技術の向上としてチームケア、引継ぎの徹底 などに取り組む。	法人の理念や地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。また、毎年の方針を明確にし、職員間で共有し、具体的な計画を立て、質の向上のためサービスの実践に繋げて取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内へのドライブや買い物に出かけることで、地域の方とも顔なじみが出来てくる。秋祭りでは、地域の方々が気軽に利用者に話しかけられました。中学校はボランティアで来て頂き交流し、小学校では行事ごとに招待され、交流を深めています。	自治会に加入はしているが活動には至っていない。祭りの際には、飲み物や食べ物を提供している。地域の中学生が毎年ボランティアに来所され交流が図られている。小学校の行事に招待を受けているなど地域の人との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には、出向いた先で積極的に関わりを持ってもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族を含め出来るだけ外部の方に参加して頂く。 昨年につづき、地域の方の参加、地域の方や役場の方より、在宅介護で困ったこと悲しかったことなどの意見を聞く機会がありました。今年度はご家族全員に電話連絡して参加を促しましたが、平日は仕事もあり難しいとの意見が多かったです。	地域役員や、役場の担当者が参加されて行われたが、今年度は定期開催には至らなかった。家族参加への試みは行ったが、平日参加はむずかしく家族参加には至っていない。	少しずつ、内容を変えたりしながら、利用者、家族の参加を促し、市町との連携を図りながら定期の開催に向けて取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町が進める社会福祉関係の策定委員会に年4回出席している。 運営推進会議にはかならず参加して頂き、介護保険や災害時の取り組みについて情報を共有しています。	担当者を含めて地域課題に向けて検討する地域ケア会議に参加したり、運営推進会議に参加していただくなど、日頃から町の担当者と話し合い、ケアについて相談しており連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間玄関のドアや窓に鍵をかけているがそれ以外は開放しています。 利用者が外に出られる時などは付き添っています。 QOL向上委員会や職員会議等で研修を行い身体拘束をしない取り組みを行っています。	玄関の施錠は行われているが、マニュアルを基に、職員全体に身体拘束防止についてアンケートをとって研修し、身体拘束をしない取り組みが行われている。	地域密着型サービスの指定基準における禁止となる具体的な行為について正しく学び、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアについて話し合ってほしい。

自己 評価	第 三 項 目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	QOL向上委員会を取り上げた議題をグループホームに持ち帰り、再度話し情報を共有しています 職員会議ではQOL向上委員が担当になり研修してきたことを発表、グループワークし話し合っています。 毎回のミーティングの中で、その都度利用者の立場になり、今後のことについて話し合っています。	法人で設置しているQOL向上委員会を中心に、虐待防止の研修やグループごとに話し合いを持ち、事業所内の虐待が見逃ごさないように、努めている。
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、成年後見登記のパンフレットを玄関の受け付けの場所に置き、誰でも手に取る事が出来ます。	成年後見制度を利用している利用者がおられ、パンフレットを玄関に配置している。今後は職員研修を行う予定があり、成年後見制度について理解を深めたいとの意向をうかがえた。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問題点に応え、十分な説明を行っている。	申し込みをしていただく時に、見学してもらい、サービス内容や金額的なことを説明し、持ち帰って考えてもらってからの申し込みを受けている。契約時には不安や心配にならないように丁寧に説明を行い質問や疑問に対応している。
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回法人全体で家族会を開催。 利用者からは毎月、寄せを行い、意見や希望をきいています。 家族の方とは面会時や電話で報告、相談しています。	面会に来られた時に、希望は聞くことはあるが、アンケートなどでの対応は今も行われていない。家族との連携は取れており、意見はサービスに反映させている。
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が希望時に面接を行って意見を聞いてもらっています。 報告、相談を常時行い思いや意見が反映できるように工夫しています。	職員は少なく、兼務職員もいることから、職員会議として全員出席としては開催されていない。いつものメンバー4人での話し合いのみになっている。個別の意見を吸い上げるように努めている。勤務希望を優先に聞き、働きやすさに配慮するなど運営に反映させている。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価を行い、本人の努力や実績に対し評価を行っています。 資格取得、研修参加をすすめています。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会を実施しています。 職員会議を利用し、施設研修を行っている。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の職員とは互助会等の交流の機会があり、お互い意見交換を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にアセスメントを行い、困っていること、希望していること等を明確にする。 生活歴やライフスタイル等、今までのスタイルを聞きます。 初期は特に関わりを多く持ち、どんな風に施設で生活していきたいか、試行錯誤しながら関係を気づきライフサイクルを構築してまいります。 入所前に事前にご自宅に訪問して生活の様子や生活空間を見せていただき、出来る限り同じ位置関係になるようにベット等、配置しています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にアセスメントを行い、困っていること、希望すること等を明確にする。 入所後の利用者の状態報告を行い、意見をきき対応に役立てる。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と相談し、対応を決めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手芸、野菜作り等の方法を教えてもらいながら互いに協力して作っています。 又、利用者の得意とされることは手伝って頂いています。 帰宅願望の強い方には、納得がいくまで外へ付き添い出かけたり。時にご自宅までドライブして家族に会いに行きました。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と報・連・相を密にとり、毎月写真入りのメッセージカードを作り、利用者がどのようにして過ごされていたか等、報告しています。 また、急変時や状態変化がある際は、電話連絡して状態説明して今後のことについて相談しています。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来られた時は、お部屋でゆっくり過ごしてもらっています。 同じ敷地内のデイサービスより、友人や親がきがるに面会に来られます。又、顔を見に面会に行くこともあります。 外出時は馴染みの所にドライブしたりします。	希望により自宅に寄ったり、馴染みの場所にドライブに出かけたり、家族の協力により外食に出かけている。デイサービスに来られた馴染みの人の訪問があり、自室でゆっくりされている。来所された方を心地よく迎えるように配慮している。家族や馴染みの人とのつながりの継続に特に支援が行われている。	

自己 評価	第 三 項 目	外部評価	
		実践状況	実践状況
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が困っていることに対し、他の利用者が助けられたり、相談にのられたりされています。	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も引受人に連絡をし、様子を伺い迷惑にならないよう配慮しながら本人に面会に行きます。手術日に医師より説明をうけました。また、カンファレンスを行いました。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望される暮らしの思いを、本人や家族より聞き取り、実現出来るように取り組む。日々のコミュニケーションの中で、思いをくみとり、本人や家族の意向を聞いていく。	日々のケアの中で、日を決めて一人ひとりの意向把握に努めている。気の合う職員が話を聞くように個別に対応し、思いを言える環境に近づくように努めている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族より話を聞いたり、本人に話をしてもらい、聞いています。その都度、家族や本人と相談しています。	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、日々の状態や過ごし方等を個別誌に記録し、ミーティングの中で話し合い、職員全員が情報共有しています。	
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との関わりを密にもち、出来る限り望まれている生活を送れるように努める。状態変化があれば、その都度計画を見直し、変更し、家族、本人に同意を得ている。	全員で利用者一人ひとりの課題を話し合っているが、担当者会議やモニタリング表の記録はない。担当職員の取り決めはなく、サービス内容の確認やチェックには至っていない。家族や職員の意見、協力医からの意見等の取りまとめた文書などは確認できなかった。半年ごとに介護計画は立てており、介護保険の更新時や状態の変化に伴って随時、見直しを行い、介護計画を作成している。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を毎日記録し、医療的なことは赤色で、特記及びヒヤリハットは赤せんで記入し、見やすいように工夫している。生活全体がリハビリ・ケアプランの実践ととらえている。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時では空き部屋がある時は、ショートを受け入れをしている。 外出時には、家族にも声をかけ、一緒に外出できるようにしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、学校等の交流で色々な行事企画をしている。 学校行事の企画があれば、できる限り参加しています。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科・歯科・の協力医療機関がある。 月に2回の往診、6ヶ月おきの健診、緊急時の往診、受診がある。 特養の看護師にもいつでも相談できる。	内科の協力医の往診が月に2回あり、歯科医への往診か受診かは家族と相談している。緊急時の受診については事業所で行っており、他科への受診については家族の協力を得ている。 状態の相談などは特養の看護師に受診の必要性について確認している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師や協力医療機関の看護師に相談し、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談をしている。 時に家族に間に入っていただき医療機関と連絡をとっています。	入院に当たって、必要な情報は提供している。緊急時には個人ファイルを持って医療関係者に情報を伝えている。必要な場合には退院時のカンファレンスに参加し退院後の支援や医療的な面の情報を共有している。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する対応方針としての契約時に看取りについて事前確認を取っている。また、直前にも確認をとっています。 状態変化があれば、かかりつけ医や家族に報告相談し、常時、情報共有し方針を決める。	契約時に重度化した場合の対応について説明し、看取りについての家族の意向を把握し事前確認書を受け取っている。また重度化に向けて状態を把握し、看取りが必要と判断された時には、事業所で出来ることを説明し、家族の希望を再度確認する、最終確認が行われている。看取り研修も法人全体で行われ、看取り経験もある。希望に沿って看取り介護を当然の流れとして受け入れ、事業所の方針として改めて明文化はされていないが、希望に沿う取り組みが行われている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあります。 吸引器の使い方をマスターしている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・昼間・夜間想定避難訓練・消火器訓練を行っています。地震については、レクレーションで地震の時にどうするか説明して頭を座布団で保護してもらうように声掛けしています。土砂災害については防災委員会で検討してほしいことを伝えていきます。また、防災マップを掲示しています。	防火訓練を年2回行い、地震時の訓練も行われている。土砂災害について、防災への検討を法人の委員会に依頼しており、運営推進委員会でも話し合われている。事業所独自の備蓄品なども準備されており、災害時に対する体制が整っている。今後は地域との協力体制に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やミーティング等で話し合い、指示語や利用者の尊厳を傷つけないような言葉づかいに気をつけている。個人記録は鍵のかかる所へ保管している。	プライバシーはケアマニュアルの中で尊厳に配慮した形でそれぞれに記載している。会議で話し合われ、言葉遣いに気をつけようなど、日々のケアの中で気が付いたことを記録に残し、参加していない職員一人ひとりに指導している。口頭での指導が多い。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が主体であり、何でも話してもらえる雰囲気作りを心がけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間はおおむね決まっているが、それ以外は自由に過ごしてもらっている。 お茶の時間などに1日どうしたいか？何かしたいことはないか？など話を聞きながら自由に過ごしてもらっています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望をききながら自分で服を選んでもらう。また、自分でクローゼットより衣類を選んでおられる方もいます。 季節に合った服装。 月1回、美容師により利用者好みの髪型へ、毎朝洗顔、整髪剤によりセットする。 行事などは本人に聞きながらお化粧も自分でされています。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月寄合を行い、希望メニューを献立に取り入れている。 旬の食材や裏山、プランターで採れた物を調理、盛り付け、片付けなどしてもらう。	春、夏の時期には、ベランダなどでトマト、きゅうり、にがうり、ピーマン等を一緒に栽培し、収穫して調理したものを食事で楽しんでいる。紫蘇ジュースも作っていただいた。また、玉ねぎの皮むきやキャベツをちぎってもらったり、吊るし柿と一緒に作っている。毎食のお膳をひいてもらったり、台拭き、お盆拭きをしてもらうことは、日常のことになっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の栄養士が考えた物をベースにしている。 又、10時のお茶の時は好きな物を飲食してもらい、15時におやつとお茶を出している。 常時、ホールにはお茶が飲めるように置いてある。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、うがい、歯みがきを行っている。 義歯は寝る前に職員が預り、ポリドントし、朝に手渡ししています。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のサイクルを把握し、トイレ誘導を行っています。 個人に合ったテナーパンツ・下着・パット等を使いわけています。	テナーパンツ3名、紙パンツ2名、布パンツのみ4名を使用されている。排泄チェック表や排便チェックも毎日しており、利用者の体調管理について記録を取りながら、排便がない日が続くと、具だくさんの味噌汁、食前に冷たい牛乳を飲みたいなど、生活の中でできることを工夫しながら対応している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜など、食物繊維の多い食品を取り入れています。 朝食時に牛乳を飲んでもらっています。又、バナナ・リンゴ・柿等旬の物も少し提供しています。 トイレ時に排便マッサージや腰をひねる体操を取り入れています。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に合わせて、1人1人、ゆっくりと入浴してもらっています。 冬にはゆず湯、五月にはしょうぶ湯等季節を楽しめるように工夫しています。 バスクリン(入浴剤)も好まれ、利用しています。	北の部屋の方、南の部屋の方と交替で1日置きに入浴を支援しているが、毎日入りたい利用者や、予定の日には入りたくない利用者には、その都度変更したりして対応している。現在のところ、夜間帯などに希望される方はない。季節を楽しんでいただくため、ゆず湯やしょうぶ湯、土日は入浴剤を使うなど変化をつけた工夫が行われている。また、できるだけ同性介助を心がけている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせて休んでもらう時間をとっています。 夜間、落ち着かない方には足浴。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬、薬情を見て副作用の確認や薬が変更になった時は引き継ぎを行い、状態変化がないか気をつけています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能や好まれることに合わせて、料理や掃除、歌、行事を行い、利用者に教えてもらいながら協力しあっています。 月1回、寄合の時等に要望・意見を話し合える場を設けています。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所内にある裏山に山菜や柿・栗をとりに行ったりします。天気の良い日には外で食事をしたり散歩したりしている。本人の希望にそった場所へ外出します。併設されている、デイサービス・特養へ遊びに行きます。	気候の変化や個々の体調や体力などに応じて、外への散歩から、ベランダの手すりに添っての散歩を日常的に行っている。真夏や真冬などの時期には、広い室内を利用して、椅子などを置いて目標をつくり、廊下や食堂を歩いておられる。自然に囲まれた環境で、庭には、湧き水がながれており、紅葉や桜などの四季折々の楽しみを満喫しながら過ごしておられる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員預りであるが、外出時等好みのものを購入している。持っておきたいと数千円、自分でカバンに持つことも可能です。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	メッセージカードを毎月送り、思いや近況等を知らせている。居室に電話をおく希望があれば設置可能。電話の希望があれば、その都度、時間帯(日中に)をみて電話連絡して話をして頂いています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をかざったり(花も利用者にいけてもらっています)自分たちで作った作品をかざっています。玄関に写真や習字をかざり、かざったものを自由に見にいわれています。	山間の自然豊かな風景が一望できる大きな窓があり、明るい自然の光がいっぱいに降り注いでいる。日差しも十分入るので、室内で、窓際においてあるソファで日向ぼっこをされていた。量のスペースもあり、洗濯物を畳んだり、テレビを置いている。広い共用空間の中の一画に台所があり、毎食、食事の支度の音や匂いが身近に感じられるようになっている。壁には、利用者の作品や、写真などが貼られている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等、移動出来るものは状況に合わせて移動しています。廊下にソファを置いたりしています。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで本人が使われていた家具・生活用品等、個別に合った装飾品が持ち込まれ家族写真等もかざっており、より自宅に近づけるように工夫しています。	広い、掃き出しの窓があり、中には、広いクローゼットが設置されて、ベッドや机、椅子、ソファなど思い思いに過ごしやすい部屋となっている。自分の作品を飾ったり、家族の写真が置いてある部屋もある。テレビのある部屋もあるが、ほとんど食堂で過ごされている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全に自分の力で「できる」が行えるように、状態変化があればその都度その利用者に合わせ福祉用具の活用しています。		